

次の古文・漢文について、主語を□で囲み、述語には――線を引きなさい。

※文法上の主語・述語ではなく、意味のまとまりとしての主語・述語を答えましょう。

- ① 楚その莊王さうわう、詹何せんかに問いひて曰いはく
- ② 天下てんかの難事なんじは、必ず易やすきより作おこり、天下てんかの大事だいじは、必ず細こなるより作る
- ③ 福さいはひと禍わざはひと外ほかより来きたるものにあらず
- ④ 暇いとまのなき人も、思おもひの外ほか、いと多おほき人ひとよりも功いさをなすもの也
- ⑤ 雪ゆきのうちに春はるは来きにけり
- ⑥ 友ともとするにわろき者もの、七ななあり
- ⑦ 過あやちは、やすき所ところになりて、必ず仕つかまつることに候まふ
- ⑧ 晋しんの車胤しゃいん字あざなは武子ぶし、南平なんべいの人ひとなり
- ⑨ ものを引きのばいて、時失ときふ者ものありけり
- ⑩ 今は昔むかし、木きこり、山守やまもりに斧よきをとられて、「わびし、心こころうし。」と思おもひて、類杖りしやううちつきてをり
- ⑪ 大雅たいが道人だうじんといひしは、をさなきより書画しよわを好このみて、あまねく天下てんかの名高なき名所なを見回みまわり、富士ふじの山やまにもあまたたび登のぼる
- ⑫ あうむの他山たかに飛とびて集じふむる有あり
- ⑬ 菓くだ子をあきなふ新右衛門しんゑもんといへるは、少欲せうよく至直しちくにして、日ひごとに買かひ品のあたひ 価あをあらそふ事ことなく、売うる人のいふままにまかせてもとめければ

解答

※文法上の主語・述語ではなく、意味のまとまりとしての主語・述語になります。
解答は「例」ですので、完全に一致していなくても可です。

- ① 楚の莊王、詹何に問ひて曰はく
- ② 天下の難事は、必ず易きより作り、天下の大事は、必ず細なるより作る
- ③ 福と禍と外より来たるものにあらず
- ④ 暇のなき人も、思ひの外、いと多き人よりも功をなすもの也
- ⑤ 雪のうちに春は来にけり
- ⑥ 友とするにわろき者、七あり
- ⑦ 過ちは、やすき所になりて、必ず仕ることに候ふ
- ⑧ 晋の車胤字は武子、南平の人なり
- ⑨ ものを引きのばいて、時失ふ者ありけり
- ⑩ 今は昔、木こり、山守に斧をとられて、「わびし、心うし。」と思ひて、頬杖うちつきてをり
- ⑪ 大雅道人といひしは、をさなきより書画を好みて、あまねく天下の名高き名所を見回り、富士の山にもあまたたび登る
- ⑫ あうむの他山に飛びて集むる有り
- ⑬ 菓子をあきなふ新右衛門といへるは、少欲至直にして、日ごとに買ふ品の価をあらそふ事なく、売る人のいふままにまかせてもとめければ